

## 御船町立御船中学校（R4）

### I 研究主題について

#### 1 研究主題

「ふるさとに誇りを持ち、夢の実現に向けて主体的に学ぼうとする生徒の育成  
～学力向上・基本的生活習慣の育成・総合的な学習の時間の充実の取組～」

#### 2 研究主題設定の理由

##### (1) 学校教育目標の具現化を図るために

本校の教育目標は「ふるさとに誇りをもち、夢の実現に向けて共に努力する生徒の育成」である。学校教育目標の具現化のために「学力の向上」は大きな重点事項であり、学校総体で取り組んでいかなければならない。昨年度の11月の校内アンケートでは次のような生徒の実態が見られた（資料1）。

【項目】「平日は、家庭学習をどのくらいしていますか。」

家庭学習時間	現中学2年	現中学3年
○2時間以上	11.6%	16.1%
○1～2時間	31.9%	39.4%
○30分～1時間	50.0%	33.6%
○30分より少ない	5.1%	8.0%
○家庭学習をしていない	1.4%	2.9%

[資料1 令和3年度11月校内アンケートより]

以上のことより、本校の生徒は授業で学習した内容の定着を図るための家庭学習の時間において、1時間未満の生徒が中学3年生には44.5%、中学2年生には56.5%いることが分かっている。

このような状態では学習に対して、「わかる」、「できる」、「興味が高まる」という学習の喜びも味わえず、ひいては学習意欲の低下を招いていることは十分に分かる。

以上の事柄をふまえ、意欲的に学習に取り組むためにも、また学校教育目標具現化のためにも、SMARTな授業実践に取り組みながら、新たな取組が必要であると考えます。

## (2) 社会の要請から

熊本県では昨年度から「熊本の学び」の取組が始まり、熊本県教育委員会もそれぞれの学校及び地域の実態に応じた「熊本の学び」の推進を求めている。本校では、4年前から熊本の学びの研究指定校として研究に取り組んでいる。本研究は昨年度までの研究をさらに深め、生徒の主体的に学ぼうとする意欲を向上させることで、熊本県の要請に寄与するものである。そこで研究主題を「ふるさとに誇りを持ち、夢の実現に向けて主体的に学ぼうとする生徒の育成～学力向上・基本的生活習慣の育成・総合的な学習の時間の充実の取組～」とする。

## (3) 研究主題の捉え方

本研究で述べる「学力」とは、学校教育法第30条2「生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。」の規定に沿うものである。

また、中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」においては、①知識・技能の習得、②思考力・判断力・表現力等の育成、③学びに向かう力・人間性等の3つを学力の要素としており、本研究では、学びに向かう力、学習意欲を向上させるものである。本研究は、全校生徒に対して行うアンケートや聞き取りをもって研究の成果とする。

## II 研究の方法

### 1 研究の仮説

#### (1) 仮説1 (学力向上)

SMARTな授業実践「分かりやすい指示や発問(シンプル=S)」、「生徒と共有した『めあて』の設定(目的・目標=M)」、「自力解決と協働解決の場の設定(アクティブ=A)」、「定着を図る時間の確保(練習=R)」、「問い方を工夫したまとめ・振り返り(たしかめ=T)」や基礎・基本的な学習事項の定着、読書活動の推進やNIEの充実を行えば、生徒の学力が向上し、主体的に学ぼうとするだろう。

#### (2) 仮説2 (基本的生活習慣の育成)

教育活動において、基本的生活習慣の確立や自己肯定感を高める取組を行えば、何事にも達成感が得られるようになり、子どもたちが物事に粘り強く取り組み、ひいては学習への意欲も向上するであろう。

(3) 仮説3 (総合的な学習の時間の充実)

教育活動において、ふるさとについて知る機会を設け、先人の生き方に触れ、それら  
を表現する取組を行えば、夢や目標を持つようになり、子どもたちが夢の実現に向けて、  
主体的に学ぼうとするだろう。

2 研究の視点

(1) 仮説1について (学力向上)

- ア SMARTな授業実践
- イ 基礎・基本的な学習事項の定着：学力向上タイム (反復学習とテスト)
- ウ 読書活動の推進：朝読書の読み聞かせ
- エ NIEの充実：学級新聞コンクール

(2) 仮説2について (基本的生活習慣等)

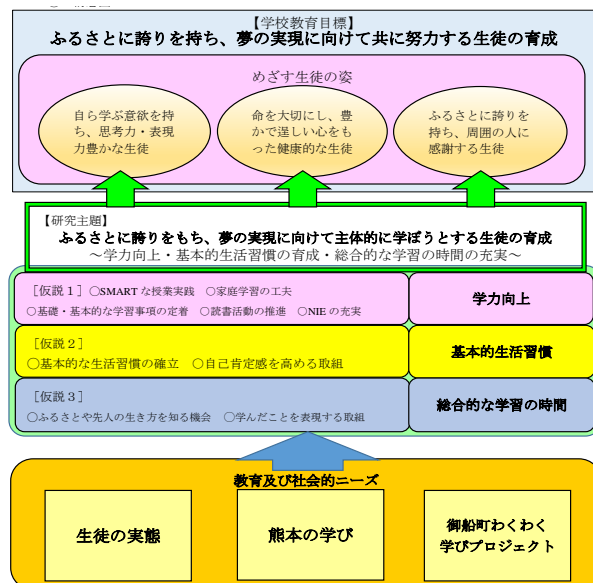
- ア 基本的生活習慣の確立：早寝早起き朝ご飯推進事業、生徒会と連携したSNSの  
注意喚起
- イ 自己肯定感を高める取組：ゆうあいタイム (SST)

(3) 仮説3について (総合的な学習の時間)

- ア ふるさとや先人の生き方を知る：地域の方への聞き取り活動、夢輝き教育講演会
- イ 学んだことを表現する取組：学習成果発表会での劇、壁新聞

3 研究の構想

それぞれの仮説に基づき、教職員を  
学力向上部会、基本的習慣部会、総合的な  
学習の時間部会に振り分け、研究に組み  
込んだ (資料2)。



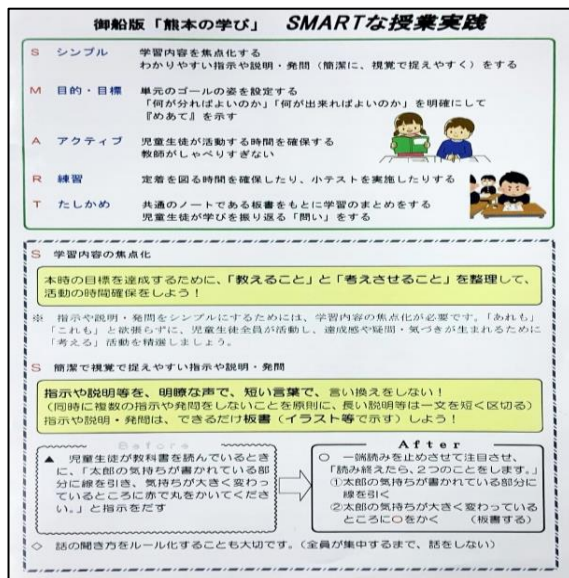
資料2 構想図

### Ⅲ 研究の内容

#### 1 学力向上の取組について

##### (1) SMARTを意識した授業づくり

年度当初、SMARTな授業実践「分かりやすい指示や発問（シンプル＝S）」、「生徒と共有した『めあて』の設定（目的・目標＝M）」、「自力解決と協働解決の場の設定（アクティブ＝A）」、「定着を図る時間の確保（練習＝R）」、「問い方を工夫したまとめ・振り返り（たしかめ＝T）」を全職員で共通理解を図り、9月から10月の期間を授業ウォッチング月間として、教員が授業を参観することで、互いの技術を



御船版「熊本の学び」 SMARTな授業実践

S	シンプル	学習内容を焦点化する わかりやすい指示や説明・発問（簡潔に、視覚で捉えやすく）をする
M	目的・目標	単元のゴールの姿を設定する 『何が分ればよいのか』『何が出来ればよいのか』を明確にして『めあて』を示す
A	アクティブ	児童生徒が活動する時間を確保する 教師がしゃべりすぎない
R	練習	定着を図る時間を確保したり、小テストを実施したりする
T	たしかめ	共通のノートである板書をもとに学習のまとめをする 児童生徒が学びを振り返る「問い」をする

**S 学習内容の焦点化**  
本時の目標を達成するために、「教えること」と「考えさせること」を整理して、活動の時間確保をしよう！  
※ 指示や説明・発問をシンプルにするためには、学習内容の焦点化が必要です。「あれも」「これも」と欲推らずに、児童生徒全員が活動し、達成感や疑問・気づきが生まれるために「考える」活動を精選しましょう。

**S 簡潔で視覚で捉えやすい指示や説明・発問**  
指示や説明等を、明瞭な声で、短い言葉で、言い換えをしない！  
（同時に複数の指示や発問をしないことを原則に、長い説明等は一文を短く区切る）  
指示や説明・発問は、できるだけ板書（イラスト等で示す）しよう！

**Before**  
▲ 児童生徒が教科書を読んでいるときに、「太郎の気持ちが書かれている部分に線を引く、気持ちが大きく変わっているところを教で丸をかくてほしい」と指示を出す

**After**  
○ 一読読みを止めさせて注目させ、「読み終えたら、2つのことをします。」  
①太郎の気持ちが書かれている部分に線を引く  
②太郎の気持ちが大きく変わっているところに丸をかく（板書する）

◇ 話の聞き方をルール化することも大切です。（全員が集中するまで、話をしない）

資料3 SMARTな授業実践リーフレット

学び合い、授業改善を図った。また、参観することで、他教科での生徒の学習の様子を観察することができ、生徒理解を深めることもできた（資料3）。

##### (2) 基礎・基本的な学習内容の定着

基礎・基本的な学習内容の定着に向けては、各教科の毎時間の授業で様々な実践を行っているが、その他に「学力向上タイム」と称した時間を設定し、基礎・基本的な学習内容の定着を目指して以下のような取組を行った。

なお、各教科の授業の一環として行うことで教育課程の中に位置づけた。

#### ア 学力向上タイム（定期テスト対策）

定期テストの前にテスト対策のための学力向上タイムを設定した。内容は定期テストに向けた自主学習や、ペアやグループで分からないところを教え合うこととした。必要に応じて教科担当の教師が巡回指導などを行うこともあった。基礎・基本的な学習内容の定着と同時に、目標を立て計画的に学習する力の育成をねらいとした（資料4）。



資料4 テスト対策で教え合う様子

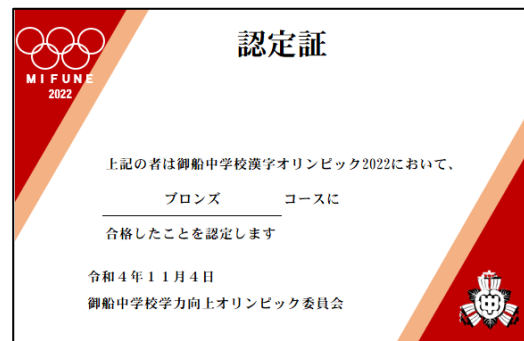
#### イ 学力向上タイム（学力調査対策）

全国学力・学習状況調査や県学力・学習状況調査など諸調査の前には学力調査対策の学力向上タイムを設定した。定期テスト対策との違いとして各教科担当の教師が対策授業を行うことや、過去問題を繰り返し解く時間を設定した。学力調査の過去問題等を参考に、基礎・基本的な学習内容を徹底して確認する時間となった。

#### ウ 学力向上タイム（学習オリンピック）

学習オリンピックでは国語（漢字）・数学（基礎的な計算問題）・英語（英単語や基礎的な英文）の学力テストを行った。事前に範囲表を配付し数回の学力向上タイムや家庭学習をとおして練習を重ね、テストに備えるようにした。またテストはゴールド、シルバー、ブロンズの3つのコースから選択できるようにし、

合格者には一人一人に認定証を配付した。家庭学習との連動や生徒が学習への達成感を感じ、意欲を高めることをねらいとした（資料5）。



資料5 学習オリンピックの認定証

### (3) 読書活動の推進

読書量を増やすことによる語彙力、読解力、表現力の向上をねらい、図書委員会の活動と連携して取り組んだ。図書委員会が実施したアンケートでは、読書が苦手な生徒から「読む時間がない」「どんな本を選んでいいかわからない。」という意見があり、昨年度に引き続き、朝読書、図書委員による書店での選書活動、ブックトーク等に取り組んだ。また、新しい企画として、My 文庫読書記録カード、BOOKS パズルチャレンジ、職員による読み聞かせに取り組んだ。

#### ① 絵本読み聞かせ隊（職員による絵本の読み聞かせ）

朝読書の時間に職員の有志による月1回読み聞かせをスタートした。絵本の選定、テレビやBGM、小道具等の効果的な使用など読み手が工夫を凝らし、読んだ後は感想や思い出を語り合う豊かな時間になっている（資料6）。



資料6 読み聞かせ隊の様子

## ② My 文庫読書記録カード

朝読書用に学級文庫を配置しているが、「読んでいる途中で他の人が手に取ってしまい、続けて読めない。」という意見があり、優先権を示すしおりとして、また、個人の読書記録として活用できるようカードを製作し配布した。特に読書好きな生徒に好評で、2枚目3枚目と記録している生徒が増えている（資料7）。

my 文庫 読書記録カード			
年 組 氏名			
読本始め	読本終わり	書 名	一 覧
例	4/12	4/20	ナミヤ雑貨店の奇蹟 <small>最後まで読んでいない と返さる物置</small>
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			



my 文庫読書記録カード

あなたが出会った本を  
心と記録に残しましょう。

読書のしおりとして  
活用しましょう。

学級文庫の本に  
はさんで、読み終わりまで  
キープしましょう。

資料7 My 文庫読書記録カード

## ③ BOOKS パズルチャレンジ（貸出クラスマッチ）

多くの本に触れ、読書の幅を広げ、継続した読書への意識付けにつながる機会になることをねらいとした。貸し出し数に応じてパズルのピースを渡し、学級、学年で貸し出し数を競いながらパズルの完成を目指すことで、意識の向上を目指した。パズルの図柄は、興味をひくような人気の題材を図書委員で選び原画を描い



資料8 BOOKS パズルチャレンジ

た。期間中、初めて図書の貸し出しを利用したという生徒も多く、期間中（11/1～11/25）426冊の貸し出しがあった（資料8）。（4月～10月は月平均100冊）

## （4）NIEの充実

### ① 本校取組のテーマ

本校は、「読解力と社会への関心を高める新聞を活用した取組」というテーマを設定し、新聞を読むことを通して、“内容を理解する力”を高めると共に、“世の中で起こっている様々な出来事に対する関心”を高めていきたいという思いを込めた。

### ② 実践の実際

本校NIEの取組として、大きく2つのことに取り組んだ。

#### ア 新聞を読もう

新聞を少しでも身近に感じてもらい、新聞を読む習慣に繋げることができるように、各階に新聞台を設置した。新聞台を設置した結果、休み時間や昼休み等に新聞を読んでいる生徒の姿が見られ、生徒が新聞に接する機会を多く作ることができた。

## イ 学びや頑張りを発信しよう

学校生活の様々な行事や体験活動を経験を通して感じたことなどを意見文や感想文にまとめ、熊日の若者コーナーに寄稿した。さらに、若者コーナーの記事をお昼の放送で紹介することで、一人の学びや頑張りを全校生徒で共有した（資料9）。

## ウ 新聞を作ろう

総合的な学習の時間で学んだことをもとに、壁新聞を各学級で作成した。読者の興味をひき、分かりやすくまとめることを目指し、コンクール形式で取り組むことにした。前段階として、「新聞社見学」や「新聞の作り方講座」も行った。どの学級も、新聞記事を充実させるために工夫しながらインタビューや調べ学習に取り組む姿が見られ、情報が集まってからも、どのような言葉で伝えたら一番分かりやすいのかをお互いに話し合いながら記事を作成し、見出しや写真、図やグラフも効果的に使いながら制作し、表現力が高まっている様子があった（資料10、11）。



[資料9 熊日若者コーナー]



[資料10 新聞講座の様子]

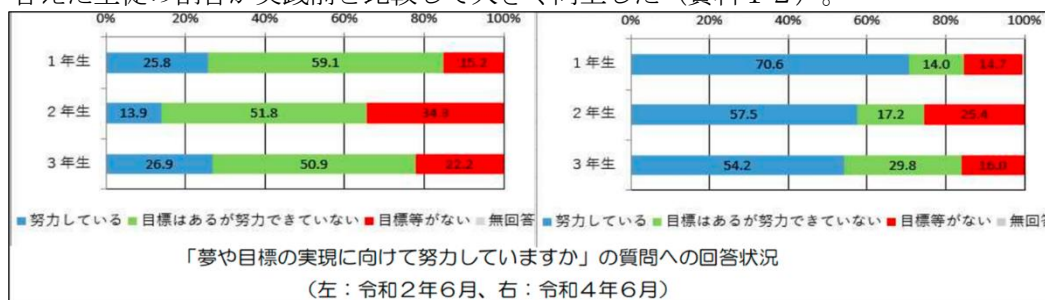


[資料11 新聞作りの様子]

## ③ 取組の成果

NIEの取組の成果として、2つのことが挙げられる。まず、生徒にとって新聞が身近な存在になったことである。新聞が目につくところに置かれていたり、新聞を使った実践を多く行ったりしたことで、「新聞を読む」ということが生徒にとって身近なものになった。

次に、社会への関心を高め、夢や目標を持つ生徒が増えたことである。毎学期行っている全校アンケートの結果を見ると、「夢や目標の実現に向けて努力している」と答えた生徒の割合が実践前と比較して大きく向上した（資料12）。



[資料12 全校アンケートの結果]

## 2 基本的な生活習慣の確立のための取組について

学校教育目標を具現化するためには、生徒が自分自身や他者を大切に、健康や安全に努め、基本的な生活習慣を確立し、自立した生活習慣が身に付くことが基盤になると考える。そのため、基本的な生活習慣の確立や他者との関わり大切に、自尊心を高めることが必要であるため取り組むこととした。

### (1) 早寝早起き朝ご飯推進事業

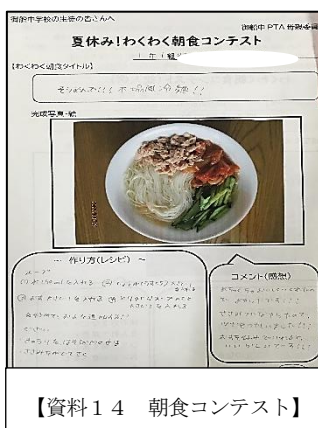
独立行政法人国立青少年教育振興機構の事業による「早寝早起き朝ごはん推進事業」を受け、こととなり、7月14日に久留米大学の内村直尚先生をお招きし、全生徒対象の講話を行った。内村先生より睡眠の役割や、睡眠の行動・発達への影響、生活リズムへの影響などについて科学的な根拠から話をいただいた。睡眠が心身の健康や学力にも影響することや、朝食の大切さなど毎日の生活リズム



【資料13 講話の様子】

が大切であることを確認した。さらに、現在の中学生の時期に基本的な生活習慣を大切にすることは、将来の目標達成へ大きな可能性が高まることなど将来につながる話をいただいた。生徒の感想からは、自分の生活習慣を見直し、目標を持つための良い機会となったようだった(資料13)。

また、本年度は、PTAの家庭委員会と一緒に夏休みに自分で朝食を作ってレシピを紹介する「わくわく朝食コンテスト」を行い、工夫されていた朝食メニューの表彰を行った。さらに、10月には、基本的な生活習慣への健康標語の募集を行った。これらのレシピや健康標語は、御船中学校が作成した2023年度のカレンダーを作成し、生活習慣の啓発のために掲載した。カレンダーは、生活習慣改善の啓発になるよう、御船中学校の全生徒や御船町の小学校5、6年生、また、これまで様々な機会にお世話になっ



【資料14 朝食コンテスト】



【資料15 作成したカレンダー】

た諸機関や地域の方々へ配布を行った(資料14、15)。



## (2) 生徒会と連携したSNSの注意喚起

### ① 取組の概要

家庭における情報機器使用方法や、SNS等を利用した生徒同士のコミュニケーションに課題を見出した生徒会執行部の役員の問題提起により、生徒会活動を通じた取組を進めた。まずは、全校生徒を対象にアンケート調査を実施し、実態の把握と課題の分析を行った。

そして、そこで確認した課題を基に、生徒会執行部の役員で課題の解決につながる行動を「み・ふ・ね」を頭文字にした標語にまとめ、「御船中学校 スマホメディア使用の新ルール」と称して生徒総会で全校生徒の承認と周知を行った。

### ② 「御船中学校 スマホ・メディア使用の新ルール」の内容

み 見逃さない 傷つける言葉 絶対に

他人のことを書かない 相手の気持ちを考えた発信・返信をする

ふ フィルタリング かけて守ろう 自分の安全

個人情報や写真は絶対に載せない・送らない

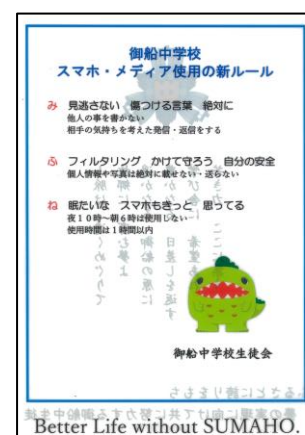
ね 眠たいな スマホもきっと 思ってる

夜10時～朝6時は使用しない 使用時間は1時間以内

### ③ 生活ノートや長期休業中の啓発プリントへの掲載

生活ノートの「生活の決まり」の項目に掲載し、年度の初めに学校や家庭生活のルールを確認する際に意識づけるようにした。

また、長期休業中の家庭生活について啓発するプリントにも、必ず裏面に掲載し、継続して意識できるようにした。さらに、「御船中学校 スマホメディア使用の新ルール」を掲載したクリアファイルを作成し、全校生徒に配布した。クリアファイルを活用し、携帯させることで、意識の向上を図った(資料16)。



## (3) ゆうあいタイム

### ① 取組の概要

生徒の、言葉で意思を伝える表現力と、互いのことを理解し合おうとする情操を育成することを目的として、月に一度、美化活動の時間を振り替えて、20分程度で実施できるグループワークやエクササイズに取り組んだ。実施する活動は、月ごとに担

資料16 配布したクリアファイル

当者を分担し、提案、準備を行った。

② 取組の実際

ア 「メンバー連想ゲーム」(資料17)

i 目的

- ・自分のことを相手に伝えることができる。
- ・相手のことを知り、認め合うことができる。

ii 内容

手順1 ワークシートを利用して、自分の好きなものを紹介し合う。

手順2 紹介された内容をグループで共有し、その人が好きなものから、その人につながるように連想ゲームを行う。

**手順1 下の表を完成させる。(5分)**  
※「好きなもの」は食べ物、芸能人、動物、趣味等、何でもOK。人と同じでもOK。「スポーツ」みたいになくても「デニス」みたいにしぼってもOK。

氏の名前	例	氏の名前	みづね だろう
フルネーム		フルネーム	御船 太郎
好きなもの①		好きなもの①	ラーメン
好きなもの②		好きなもの②	魚釣り

**手順2 班で、自己紹介をする。(2分)**

<b>自己紹介文</b>	例	<b>自己紹介文</b>
私の名前は ( ) です。	私の名前は ( 御船太郎 ) です。	
( ) と	( 魚釣り ) と	
( ) が好きです。 よろしくお願ひします。	( ラーメン ) が好きです。 よろしくお願ひします。	
<b>みんなで拍手!!</b>		<b>みんなで拍手!!</b>

資料17 ワークシート

イ 「見方を変えてみよう～リフレーミング～」(資料18)

i 目的

- ・自分や人のことを肯定的にとらえることができる。
- ・自分や人のよさを見つけて伝え合うことができる。

ii 内容

手順1 ワークシートとリフレーミング辞典を利用して、例示してある短所をリフレーミングする練習を行う。

手順2 リフレーミング後のワードの中から、自分やグループのメンバーに当てはまるものを話し合う。

	リフレーミング前	リフレーミング後
1	あ	
2	・厳きっぱい	・厳格・従順
3	・あきらめが悪い	・一途(いちず)な
4	・甘んばう	・人なつこい
5	・天の罪業	・徳性的
6	・荒々しい	・きたえられた
7	・あわてんぼ	・行動的な
8	い	
9	・いいかげん	・おおらか
10	・悪見が言えない	・争いを好まない
11	・意地をはる	・しっかり者
12	・いたづら	・こまめに動く
13	・いばる	・自信のある
14	う	
15	・根拠	・譲りに乗らない
16	う	
17	・浮き足みが悪い	・心豊かな
18	・うるさい	・明るい
19	・よっ張り	・明朗快活である
20	え	
21	え	
22	・えらそう	・物知り
23	・臆病	・慎重
24	・おこりっぽい	・感受性豊かな
25	・おしゃべりな	・社交的な
26	・おせっかいな	・親切な
27		・積極に馴染みやすい
28		・チャレンジ精神に富む
29		・人にかわいがられる
30		・自分自身の考えを理解している
31		・堂々とした
32		・行動が機敏な
33		・こだわらない
34		・協調性がある
35		・物おじしない
36		・活動的で元気がいい
37		・プライドがある
38		・落ち着いてこつこつやる
39		・表情豊かな
40		・無邪気
41		・お姉(兄)さんのような
42		・用心深い
43		・活発な
44		・勇気が豊かな
45		・きちんとしている
46		・情熱的な
47		・活発な
48		・勇気が強い
49		・気が利く
50		・謙遜が強い
51		・優しい

資料18 リフレーミング辞典

ウ 「虫さん教室の席替え」(資料19、20)

i 目的

- ・自分の知っている情報を伝えたり、人が伝える情報をしっかり聞いて内容を把握したりできる。

ii 内容

- 手順1 グループで、「情報カード」を配布する。
- 手順2 グループ内で、自分の「情報カード」に書かれている情報を発表する。
- 手順3 お互いに発表した情報を基に、「虫さん教室」の座席を解明していく。

①はたらきものアリさんは、ハエさんのとなりです。	②オトシブミさんの席は、かどにあります。	③オトシブミさんは、教室のうしろの落とし物をよく拾います。	④きれいな虫は、前の窓ぎわです。	⑤トンボさんは、となりの人がダンスが上手なので、びっくりしました。	⑥カマキリさんは、よくとなりのコオロギさんに、はざみをかかります。
⑦教室の左側に、まどがあります。	⑧トンボさんの前の人は、水泳がとくいです。	⑨ハチさんは、はたらきものです。	⑩コオロギさんの席は、かどにあります。	⑪ハエさんはきれいで、よくそうじをしています。	⑫カマキリさんは、うしろの子の歌がいいなあと思っています。
⑬チョウさんは、ダンスが上手です。	⑭セミさんは歌が好きで、よく歌います。	⑮ゲンゴロウさんは、水泳がとくいです。	⑯カトムシさんは、右となりのウガタさんと毎日すもうをします。	⑰はたらきもの二人は、つろうをはざんでとなりどうしです。	⑱カトムシさんの席は、かどにあります。

資料19 情報カード



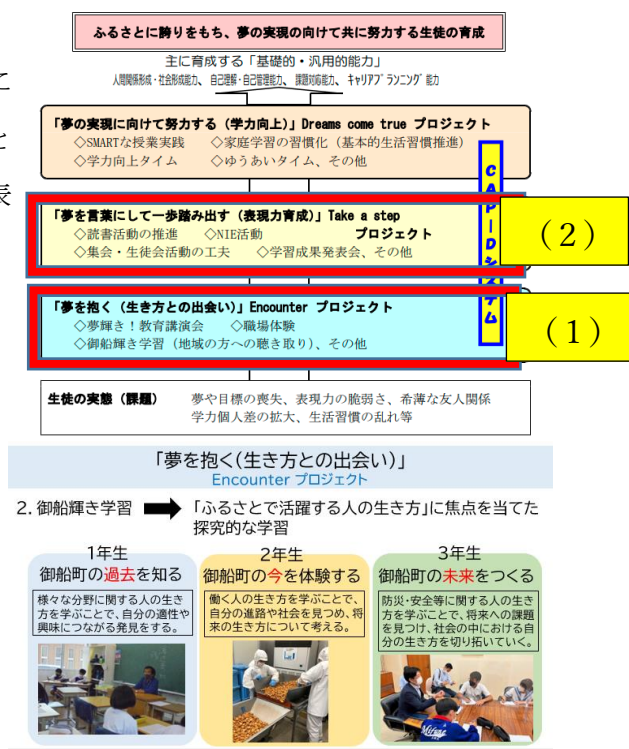
資料20 座席表

3 総合的な学習の時間について

「御船中 For the future プラン」の実現にむけて、総合部会では主に「夢を抱く(生き方の出会い)」、「夢を言葉にして一歩踏み出す(表現力育成)」の取組を行った(資料21)。

(1) ふるさとや先人の生き方を知る機会

- ① 御船町の過去・現在・未来を探究する
- 御船町で活躍する人の生き方に学び、ふるさとに誇りを持つ生徒の育成をはかることをねらいとした。学年ごとに、講話を聞いたり、一緒に体験活動を行うことで、自己の生き方・あり方を見つめ、互いの良さを生かし、積極的に社会に参画しようとする探究活動を行った。



資料21 御船中 For the future プラン

## ② 幅広く活躍する人の生き方を知る機会

令和2年度から行っている「夢輝き！教育講演会」は、外部の方をお招きして、夢を持つことの大切さに関する講話をしていただくことで、自分自身の生き方について改めて振り返ることをねらいとした（資料2 2）。

今年度はゴールボール金メダリストの浦田理恵さん（資料2 3）、1型糖尿病と向き合いながらエアロビック競技で活躍した大村詠一さん、久留米大学学長で日本睡眠学会会長の内村直尚さん、三井不動産株式会社常任相談役の市川俊英さんに講話をいただき、講師の方々の生き方や職業観にふれることができた。

## (2) 学んだことを表現する取組

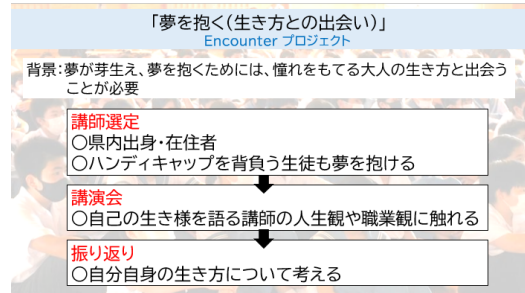
### ① ステージ発表

5月に民話芸術による観劇会が行われた。本物の劇にふれることで、学習成果発表会での演技にいかすことをねらいとした。生徒の一人が劇団の方と一緒に演技をし、学習成果発表会では主役として活躍した（資料2 4）。

### ② 展示発表

9月に全学年を対象に、熊日新聞社の協力を得て新聞講座が開かれた。新聞の歴史や構成などについて学び、見出しのつけ方を考える演習を行った。そこで学んだことを活用し、壁新聞やパネル作成を行い、学習成果発表会で展示した（資料2 5）。

また、御船町カルチャーセンターにも1週間展示し、地域の方にも学習の成果を発信した（資料2 6）。



資料2 2 「夢輝き！教育講演会」のねらい



資料2 3 ゴールボールの浦田理恵さんの講話



資料2 4 観劇会とステージ発表のつながり



資料2 5 新聞講座と展示発表のつながり

③ 1・2年生合同ワークショップ

学習成果発表会の後、さらなる表現力向上を図るために1・2年生合同ワークショップを行った。声の大きさやスピードを意識し、3分間以内で工夫して伝えるように各学年で練習の機会を設けた。本番では堂々と発表したり、聞く側も積極的に質問したりする姿が見られた。また、異学年交流にもつながり、1・2年生で御船中学校を創り上げていこうとする一体感が感じられた（資料27）。



資料26 地域の方々に学習の成果を発信する

「夢を言葉にして一歩踏み出す(表現力育成)」  
Take a step プロジェクト

2. 1・2年生合同ワークショップ

プレゼンテーションの練習 → 1・2年生合同ワークショップ

1年生 1年生 2年生 1年生と2年生

- ◇声の大きさやスピードを意識する
- ◇伝えたい内容を整理する
- ◇質問やクイズなど伝える工夫をする
- ◇工夫があり、表現力向上になった
- ◇双方向での発表活動になった
- ◇異学年交流につながった

資料27 1・2年生合同ワークショップ

IV 研究の成果と課題

1 研究の成果

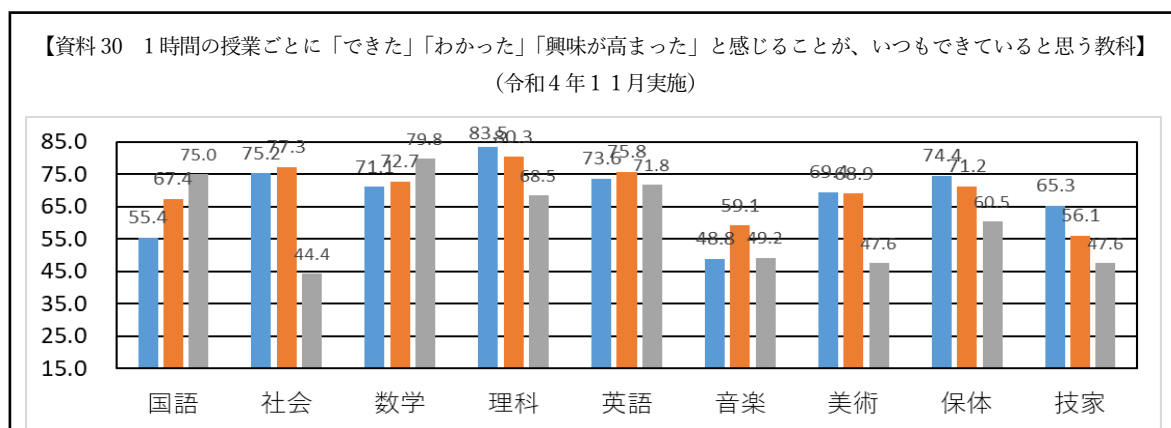
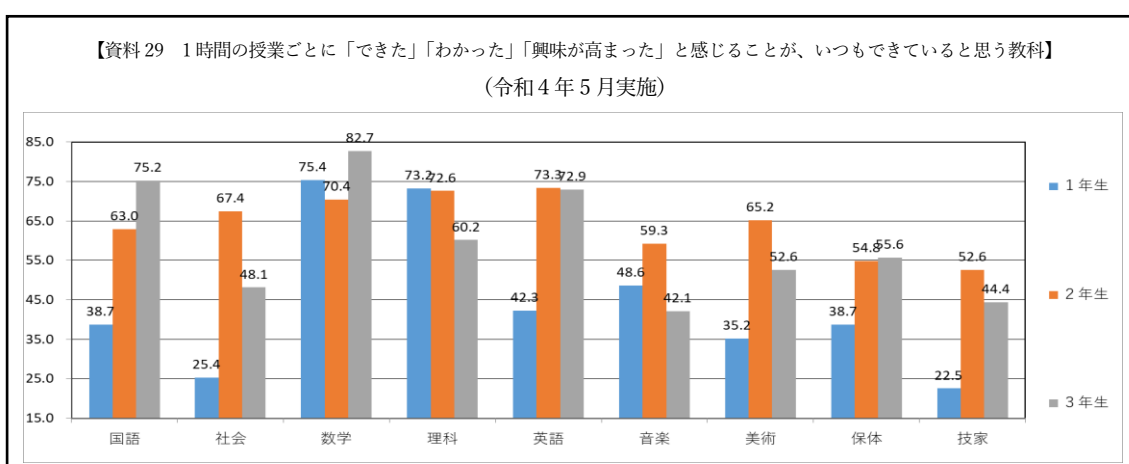
(1) 仮説(1)に関する成果

仮説(1)は「SMARTな授業実践や家庭学習での工夫、基礎・基本的な学習事項の定着、読書活動の推進やNIEの充実を行えば、生徒の学力が向上し、主体的に学ぼうとするだろう。」であった。これらの取組によって、生徒にどのような変容が見られたか、以下では二つの資料を用いて検証する。資料28は、前掲の資料1に、今年度11月の調査結果を加えて作成したものである。

**【資料28 平日何時間勉強していますか】**

家庭学習時間	現中学2年 (昨年11月)	現中学2年 (今年11月)	現中学3年 (昨年11月)	現中学3年 (今年11月)
○2時間以上	11.6%	15.1%	16.1%	54.8%
○1～2時間	31.9%	46.2%	39.4%	34.7%
○30分～1時間	50.0%	31.8%	33.6%	10.5%
○30分より少ない	5.1%	6.1%	8.0%	0%
○家庭学習をしていない	1.4%	0.8%	2.9%	0%

ここからわかるように、現中学2年生、3年生ともに、1時間未満と答えた生徒が減少し、1時間以上と回答している生徒が増加している。現中学3年生にとっては、今年度の調査は受験直前期にあたるため、家庭学習時間が増えることは当然に予想できるが、現中学2年生も昨年度から数値が上昇していることを踏まえれば、少なくとも家庭学習時間を延ばすことに関しては本実践の成果が一定程度現れたといえる。また、生徒に「1時間の授業ごとに『できた』『わかった』『興味が高まった』と感じることが、いつもできていると思う教科に○をしてください」というアンケートを行った。その結果を示しているのが資料29、30である。



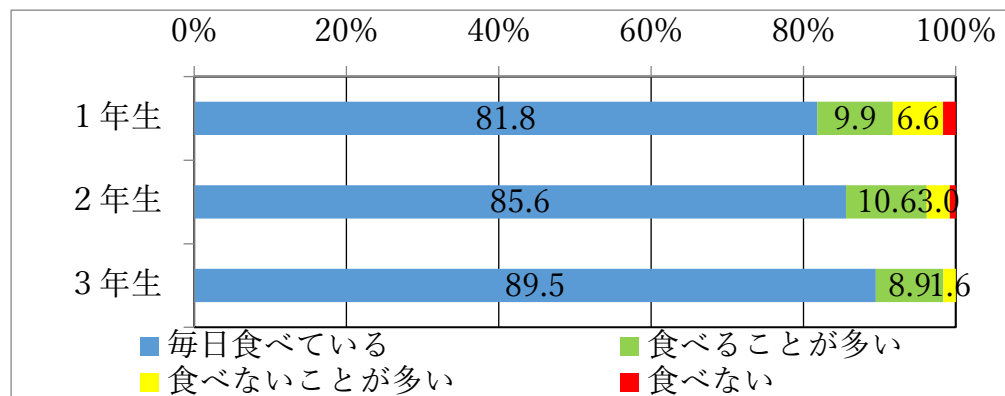
5月と11月のアンケート結果を比較すると、多くの教科で11月のアンケート数値が5月のアンケート数値を上回っていることが分かる。特に、1年生の国語、社会、理科、英語、美術、保体、技家、2年生の社会、保体では10%以上の増加があることがわかる。3年生においても、3つの教科ではあるが、数値が上昇している。このことから、総合的に見て、学力向上につながる授業改善が進んでいることがうかがえる。

以上、本研究における取組により、生徒は以前より興味・関心をもって学習に取り組むようになり、家庭学習時間も増加したことが明らかとなった。したがって、仮説（１）に対しては、生徒が主体的に学ぼうとするようになったという成果があったことが分かる。

（２）仮説（２）に関する成果

① 早寝早起き朝ご飯推進事業の成果

全校生徒を対象に行った、「朝食を食べていますか。」というアンケートについて、各学年、90%を超える生徒が「毎日食べる」「食べることが多い」と回答しており、朝食を食べることの大切さを意識した生活ができているといえる（資料31）。



資料31 「朝食を食べていますか。」アンケート

② 生徒会と連携したSNSの注意喚起の成果

全校生徒を対象に行った、「御船中学校 スマホ・メディア使用の新ルール」の項目に関するアンケートについて、「他人のことを書かない」「相手の気持ちを考えた発信・返信をする」「個人情報や写真は絶対に載せない・送らない」の項目で、各学年、80%を超える生徒が「できている」と回答しており、また、各学年86%を超える生徒が「ルールを守ろうと努力している」と回答した。このことから、生徒は情報機器や情報の取り扱いについて、ルールを守る意識が高まっているといえる（資料32）。

	1年生	2年生	3年生
他人のことを書かない	89.3%	91.7%	87.9%
相手の気持ちを考えた発信・返信をする	87.6%	90.9%	83.9%
個人情報や写真は絶対に載せない・送らない	86.0%	84.1%	80.6%
ルールを守ろうと努力している	89.3%	85.6%	88.7%

資料32 「御船中学校 スマホ・メディア使用の新ルール」に関するアンケート

### ③ ゆうあいタイムの成果

生徒は、積極的にゆうあいタイムの活動に取り組むことができている。活動の様子としては、自分のことを伝えたり、話したりするのが苦手な生徒も、ゆうあいタイムの活動のルールに従ったり、ワークシートや資料などの支援を受けたりして、自分から話すことができている。また、班単位で活動しているが、班員が話していることをしっかり聞こうとする周囲の様子も見られ、温かい雰囲気の中で活動することができている（資料33）。

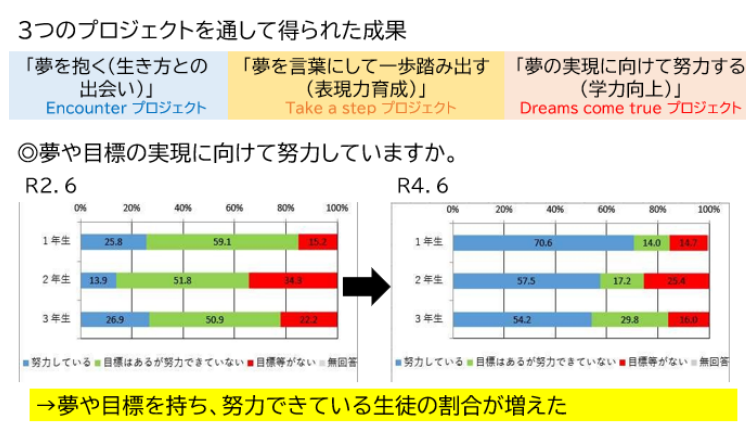
	R3 5月7日	R4 4月28日	R4 9月29日	今年度比
1年生	79.3%	86.6%	86.9%	+0.3%
2年生	71.5%	74.8%	79.3%	+4.5%
3年生	72.3%	79.0%	83.2%	+4.2%
全校	74.4%	80.1%	83.1%	+3.0%

資料33 「自分の意見を発表してよかったと思いますか。」アンケート

### (3) 仮説(3)の内容に関する成果

「輝け！御船中」実践点検シートの質問項目「⑦夢や目標の実現のために努力していますか」の分析結果より、肯定的な回答が昨年5月が全校平均74.4%、今年4月80.1%、9月83.1%と伸びた（資料34）。

地域の方々や教育講演会で出会った人たちの生き方にふれることで、自分の生き方を見つめ直し、夢や目標に向かって学習面でも努力しようとする原動力につながったと考えられる（資料35）。また、御船町全体に学習成果を発信することができ、未来を担う地域人材の育成につながったと考えられる（資料36）。



資料34 「輝け！御船中」アンケート結果



**若者コーナー**

凡事徹底して  
夢かなえたい

田中侖奈 中学3年生  
(御船町)

学校で、パラリンピックのゴールボール女子に日本代表として4大会連続で出場し、ロンドン大会では金メダルに輝いた浦田理恵さんの講演がありました。浦田さんは、優しく明るくて、やる気にあふれている人でした。中学生の私たちにとてもわかりやすい話で、聞いていて元気をもらったように感じました。特に心に残っているのは、「チャレンジをした先に失敗はない。あるのは、成功か成長だ」「凡事徹底の積み重ねが夢をかなえる」という言葉です。

私は、学校の最上級生として、今やるべきことを確信している部分があります。自分で立てたスケジュールが守れず、今日までにやるはずだった学習を翌日に持ち越したりすることもありません。家庭学習を始めると、時刻をよめるたびに「つぎはなんやあーん」と親切にしてくれるときにお礼を必ず言うことなど、一つ一つ丁寧にやっていたころを思い出します。


また、私は、大人数の前で話すのが嫌いで、失敗したらどうしようかと思ったり、チャレンジしなかったことがあります。私は音楽関係の仕事に就きたいという夢があります。夢に向かって、今やむければならないことに一生懸命にチャレンジしています。

資料3 5 地元紙に掲載された生徒の感想

**もっと町を知りたい！ 御船中学校総合学習**

9月20日(火)、御船中学校3年生10人が総合学習の時間で御船町役場を訪れ、藤木正幸町長にまちづくりや防災のことなど直接インタビューをしました。

「私達、中学生に求めるものは何ですか」という質問で藤木町長は「中学生のうちから色んなことに挑戦し、引き出しを増やしてほしい。この引き出しはきっと困ったときの判断材料になります」と話していました。生徒たちはうなずき、真剣にメモをとっていました。この日の経験もきっといつかのためになると藤木町長は笑顔を見せました。



▲藤木町長に直接インタビューする生徒たち。時折、生徒たちの笑顔も見られました

資料3 6 町の広報誌に掲載された記事

## 2 課題と今後の志向

### (1) 仮説(1)の内容に関する課題と今後の志向

生徒アンケートの「1時間の授業ごとに『できた』『わかった』『興味が高まった』と感じることが、いつもできていると思う教科に○をしてください」の項目において、多くの教科で増加傾向にあったが、過半数を超えない教科や減少傾向にある教科もあった。学習内容や教科の特性にもよるが、今後はSMARTな授業実践や基礎基本の定着を行うことは前提としつつ、生徒が具体的にどのような場面で「できた」「わかった」「興味が高まった」と感じているのか、また、それを促したのは授業や教師のどのような要素なのか、その内実を詳細に調査する研究を蓄積していく必要がある。

また、実践の結果、家庭学習時間が増加したことが明らかとなったが、その学習時間の中で生徒が具体的にどのような学習内容に、どのような方法で取り組み、どんな成果が出たのか、あるいは出なかったのか、その点を分析する研究にも取り組んでいく必要がある。なぜならば、たとえ生徒が長時間学習に取り組むようになったとはいえ、学習方法を間違えていたり、自らに適したものではない方法を選択したりしていた場合、生徒が努力しても学習の成果が出ず、今後学習に対して無気力になってしまう場合もあり得る(いわゆる「学習性無力感」)からである。

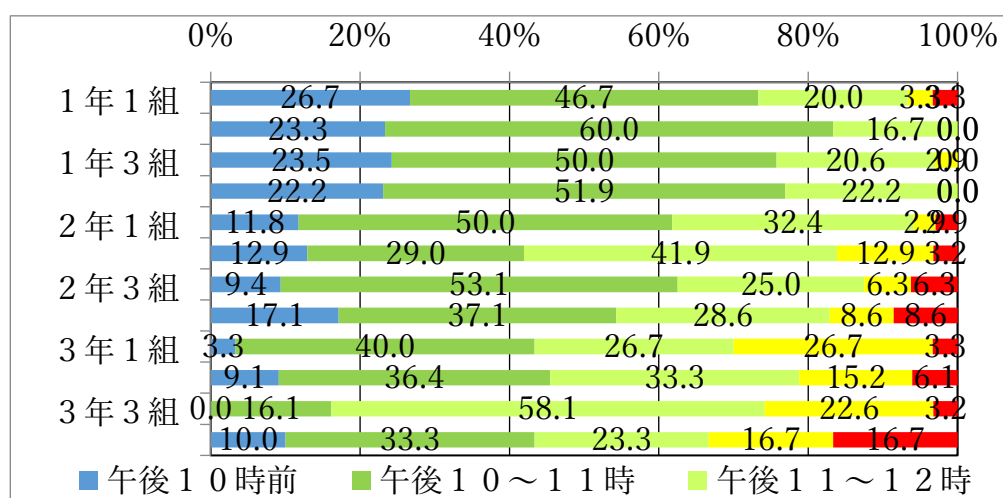
さらに、本年度は学力向上のために、①SMARTな授業実践、②基礎・基本的な学習内容の定着、③読書活動の推進、④NIEの充実の4つの取組を行ってきたが、さらに研究を突き詰めていくためには、そもそも「学力」をどう定義し、どう評価していくのかという問題に行き当たる。本研究では、「学力」を、学校教育法第30条2「生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。」を基に定義づけたが、この定義は広範で多義的であるため、学力調査におけるスコアによって評価すればよいのか、あるいは他の指標によって評価する必要があるのかが曖昧になりがちである。だとするならば、「学力向上」をめざして行う様々な工夫された取組が、ややもすれば総花的な取組に陥りがちな側面がある。この点を、次年度以降の校内研究においては整理していきたい。

(2) 仮説(2)の内容に関する課題と今後の志向

① 早寝早起き朝ご飯推進事業の今後の志向

各学年に、「朝食を食べないことが多い」「朝食を食べない」生徒が10%以下だけ見られるため、全校生徒が朝食の大切さを理解し、毎日朝食をとる習慣が身につくように、全体指導とともに、個別の指導も充実させていきたい。

また、全校生徒を対象に行った、就寝時間についてのアンケートでは、学年が上がるにつれて、就寝時間が午前0時を過ぎている生徒が増加する傾向にある。家庭学習時間との兼ね合いもあるが、その他の時間の使い方などをスケジューリングさせ、必要な活動時間を確保しながら睡眠時間を生み出す方法を指導していきたい(資料37)。



資料37 就寝時間に関するアンケート

## ② 生徒会と連携したSNSの注意喚起の成果

全校生徒を対象に行った、「御船中学校 スマホ・メディア使用の新ルール」の項目に関するアンケートについて、「夜10時～朝6時は使用しない」「使用時間は1時間以内」の項目で、各学年、「できている」と回答した生徒が60%以下となっており、生徒が、家庭で情報機器を使用する時間について自己管理をする力をつけられるように、改めて取組を進める必要がある（資料38）。

	1年生	2年生	3年生
夜10時～朝6時は使用しない	52.1%	43.2%	31.5%
使用時間は1時間以内	57.8%	50.8%	54.0%

資料38 「御船中学校 スマホ・メディア使用の新ルール」の項目に関するアンケート

## ③ ゆうあいタイムの成果

ゆうあいタイムは生徒の表現力やコミュニケーション力を伸ばす上で有効な取組と考えられるが、実施する時間を確保するために、現状では美化活動の時間を振り替えている。そのため、活動の頻度を増やすことは難しい。本年度は、ゆうあいタイムの取組を9月から実施したが、来年度は、4月から実施することで、活動の回数を確保したい。

また、各月で担当者を割り振っているが、準備に時間がかかる活動もある。本年度実施できた各活動のデータや教材をストックしておくことで、来年度、スムーズに取組を進めていけるようにしたい。

## (3) 仮説(3)の内容に関する課題と今後の志向

### ① 地域との連携

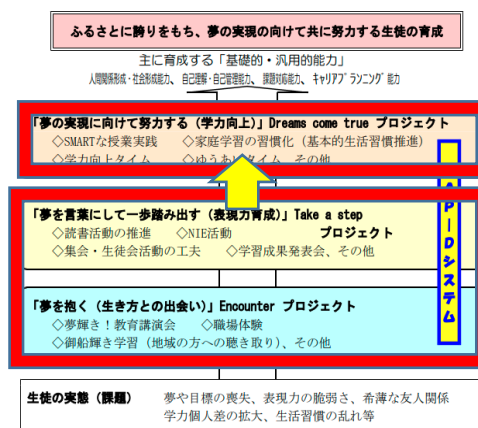
「開かれた学校づくり」を目指すために、地域社会ともっと連携を深めていく必要があると考えられる。コロナ禍の体験活動のあり方を模索していく必要があると考えられる（資料39）。



資料39 町の花植えボランティア活動の様子

② 学力向上とつなげる取組

「御船中 For the future プラン」で培った夢への原動力を学習意欲につなげる取組を考えていくと、より効果的であると考えられる。各教科において、学習内容と実生活とのつながりを意識した授業改善をさらに推進していくことで、学力向上につながると考えられる（資料40）。



資料40 御船中 For the future プラン